

科目名	健康科学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	健康科学について、科学的に検証されたデータを基に、現状で最も新しく、かつ信頼性の高い知見を得るためには、どのような文献を基に、どのように考えれば良いか、という方法論を身に付けることを目的とする。教材、参考図書を提示してあるが、必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。課題としては、自分自身の身近で具体的な問題を取り上げ、健康の維持・向上に関しては、ヒトの個体としての側面と、集団・社会・公衆衛生学的なアプローチの両面からの考察を行い、また生命科学の基礎的な知識を学修し、それを基にした近年の医療・生命科学技術とその応用、及び実際に応用する際の社会倫理的な問題を考察する。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>健康科学に関連する課題を取り上げ、その問題点を整理し、最新の知見を基に、その課題に取り組む方向性を見出す方法論を身に付ける。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能(「スレッド」)に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も平成31年1月上旬までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	平常評価	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい(izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします。</p> <p>4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p> <p>注1：後期の課題については、これまで生物学・生命科学を履修していない場合は、内容が難しいと思われるため、スクーリングを受講すると同時に、不明の点はメール等で問い合わせして下さい。</p> <p>注2：本レポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： (1) 山崎喜比古, 朝倉隆司 (編) 『新・生き方としての健康科学』 (有信堂, 2017年) 教材名： ISBN 978-4-8420-6589-2 2,900円+税 著者名： (2) 厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会, 次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会 教材名： 『健康日本 21(第二次)の推進に関する参考資料』 (2012年) (厚生労働省ホームページより入手可能) http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkounippon21.html</p> <p>(1) 健康科学に関し, 全般的にまとめられたテキスト。基礎的な側面は基本教材 2 課題 1 のテキスト (『現代生命科学』) が参考となる。 (2) は 2012 年に厚生労働省によって, 今後 5 年間の健康活動への取り組みについてまとめられた資料である。基礎的な側面には触れられていないが, 参考文献も盛り込まれており, 日本としての健康科学の取り組みを知る上では準拠すべき資料となる。</p>
参考図書	竹内康浩・田中豊穂監修 『テキスト健康科学』 (南江堂, 2017年) ISBN 978-4-524-25885-7 2,600円+税
履修上のポイント	本課題においては, 健康の維持・向上のための取り組みについて, ヒト個体に対するアプローチと, 人間集団に対するアプローチの両面から考察する。 取り上げた教材・参考図書は, あくまで一つの参考資料に過ぎず, 必要な文献は自分で調べること。特定の疾患を対象とする場合は, 各々の診療ガイドラインを参照すること (ガイドラインに批判的な見解であっても構わない)。
レポート課題 1	まず, 「健康とは何か」について, 自分なりに定義すること。その際, ヒトとして避けられない加齢・疾患・死への対処も含めて考察すること。その上で生活習慣が関連する疾患 (高血圧, 糖尿病等; ガン, 肥満を含む) から一つ取り上げ, ヒト個体の観点からその原因に関して考察し, その対策について述べなさい (例: 高血圧に関し, 食習慣や運動不足との関連について)。 留意点: なるべく自分自身の経験を基にすること (家族や周囲の方の事例でも可)。
レポート課題 2	生活習慣が関連する疾患 (高血圧, 糖尿病等; ガン, 肥満を含む) から一つ取り上げ, 人間集団の観点からその原因に関して考察し, その対策について述べなさい (例: 高血圧に関し, 職場・地域社会での取り組みや食文化との関連について)。 留意点: なるべく自分自身の経験を基にすること (家族や周囲の方の事例でも可)。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 東京大学生命科学教科書編集委員会編 教材名： 『現代生命科学』 (羊土社, 2015年) ISBN 978-4-75-812053-1 2,800円+税</p> <p>生命科学の基礎的な知識に関し, 最新の情報を基に簡潔, かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は, 『理系総合のための生命科学(第3版, 2013年)』でも可。</p>
参考図書	<p>(1) 福岡伸一著 『生物と無生物のあいだ』 (講談社現代新書, 2007年) ISBN 978-4-06-149891-4 740円+税 (2) 厚生労働省 『研究に関する指針一覧』 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/ (3) 経済産業省 『遺伝子検査に関する注意事項』 http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/bio/pdf/leaflet.pdf</p>
履修上のポイント	生命を構成する基本的なメカニズムを学修し, 近年の医療分野への応用に関する方法論と, 倫理的な問題点について考察を行う。これまで生命科学にあまり馴染みの無い場合は, スクーリング時の講義を参照すること。
レポート課題 1	新たな医療方法としての, 遺伝子診断, 遺伝子治療, 再生医療 (iPS 細胞治療), 移植医療等のいずれかを取り上げ, 対象とする疾患とその診断・治療方法の原理, 及び期待される結果を論ずること。最近の生命科学技術の進展に関連する, 自分自身の担当業務, または日常生活上での出来事に関する事項でも可 (例: 遺伝子組み換え食物)。
レポート課題 2	課題 1 の診断・治療等を実施する際に生ずる倫理的問題を取り上げ, その技術的限界を踏まえた上で, 本人・家族への説明と同意, 及び社会的コンセンサスをどのように得るかを, 論ずること。または課題 1 で取り上げた題材における, 社会的な問題でも可。